

これからの学校づくり第3回検討委員会 話し合い（ワークショップ）まとめ

テーマ① 「自分にはよいところがある」と回答する子どもが少ない

<主な意見>

1. 「級友・自分」

- ・親や先生の多忙化で子どもが褒められたり、認められたりする機会が減少した
(結果、自分の良いところに気づきにくい環境となってしまった)
 - 親やまわりの大人が子ども達を認める、褒めることが大切
 - 家庭、学校、地域が同じ方向を向いて子ども達の体験の機会を創出することも重要
- ・子ども同士の社会が希薄化しており、互いに褒め合う機会が減少した
 - 良いところを互いに褒め合う、認め合う場面を作る

2. 「先生・学校」

- ・行事、各種活動、体験、経験の不足
 - 子どもが活躍できる場、自信を持てる機会を作る
 - 地域行事の復活
- ・先生、親等の子どもへの過干渉
 - 子ども同士で解決する機会を作る
 - 子どもを信じる
- ・親から勉強しろ、或いは学校で勉強や運動ができる子が評価されがち
 - 点数化されにくいところも評価してあげる
- ・皆同じことを同じように、という教育場面が多い
 - 自分の考えや思いを伝える授業を設ける

3. 「家庭・地域」

- ・親が多忙で子どもとコミュニケーションをとる機会が少ない
- ・親が多忙で子どもを褒めたり、認める機会が減少した
- ・親が多忙で子どもの話を充分聞けない環境
- ・スマホの使用時間増により家庭内でのコミュニケーション時間の減少
 - 時間が無い中でもとにかくたくさん会話できるようにする
 - 学校での勉強、どんなことをしているか聞く
 - 地域が親をサポートする
- ・将来の夢を持ってない（目標がない）
 - 将来について一緒に話し、関心を示す

テーマ② ふるさと室蘭に愛着を持つ子どもが少ない

<主な意見>

- ・室蘭の良さに気づいていない。本では勉強しているが体験・経験がない
- ・町内会の加入率も減っている
 - 次につながる活動を増やし、地域の一員である自覚を芽生えさせることが重要
- ・親が室蘭を知らない
- ・工業都市であるため、愛着を持つ子が少ないのは仕方ないのでは
- ・室蘭の良さを知る機会がない
 - 学校等で良さを教えていく
 - ロボットサッカー等、室蘭の良い点が増えるように助長していく
- ・子どもが遊べる施設・何度でも行きたくなる施設・図書館にスターバックス等を等、「ここ」という推しがない
- ・病院・景観・千歳が近い等室蘭の良さはあるが、親世代がわかっていない
- ・以前はサッカーのイメージが強かったが、街をあげて押し出せるものがなくなった
- ・子どもにとって公共交通機関が不便だ
 - 街をあげて押し出せるものはないが、人の温かさを感じる街をつくることで、子どもが魅力を感じるのでは
 - 自分らも他地域の方達に言われて気づく魅力もあるので、そういう意見を大事にしていきたい